



DIR INFORMATION

同志社ローム記念館 プロジェクト・レポート

DIR

[ディー・アール]

Vol.23
April 2015

「プロジェクト」な私
2015年度プロジェクトメンバー募集!

2015年度 プロジェクトメンバー募集!

募集に関するイベントは右記のとおり開催
予定です。
授業の合間のご相談も随時受付中。興味のある方は、お気軽にローム記念館事務室やスタジオZero (RM221) にご相談ください。
プロジェクト情報は広報誌「ippo」にも掲載されています。館内およびキャンパス内各所で配布していますのでぜひ手にとってご覧ください。

新メンバー募集イベント

- 4月2日(木)10:00~16:00
4月3日(金)~4日(土)、6日(月)10:00~15:00
プロジェクト説明会
ローム記念館正面入口付近(G階 オープンテラス)
- 4月16日(木)16:45~19:00
プロジェクト交流会
ローム記念館劇場空間
- 4月13日(月)~17日(金)、20日(月)~24日(金)15:00~18:30
プロジェクト個別説明会
ローム記念館2階プロジェクトルーム

編集後記

ローム記念館プロジェクトは、今回立ち上がるプロジェクトが第12期となる。
2013年度には、10周年記念企画として、これまでのプロジェクトの復刻や様々な団体とのコラボレーションが実施された。その一方で、運営委員会では、ローム記念館プロジェクトの次の一歩を踏み出すための計画と準備がなされていた。



昨年度、新たな取り組みとしてプレ・プロジェクトが実施された。委員会では、プレ・プロジェクトを「プロジェクト活動で活躍する人物を養成するための塾」と位置づけ、プロジェクトの進め方や個々のメンバーの意識や意欲などを学ぶ場とすることが議論された。プレ・プロジェクトを担当された先生方には準備から実施まで非常にご苦労をおかけしたが、その甲斐あって、春・秋ともに充実した内容となり、また当初の思惑通り、参加者のプロジェクトへの意欲も高まった。

本年度も春と秋にプレ・プロジェクトを実施する予定である。多くの学生・生徒諸君が参加し、プロジェクトを通して新たな自分の発見、成長を実感してくれることを期待している。

(同志社ローム記念館プロジェクト運営委員会委員長 大久保 雅史)

表紙の人

すぎやま こうじろう
杉山 晃次郎さん

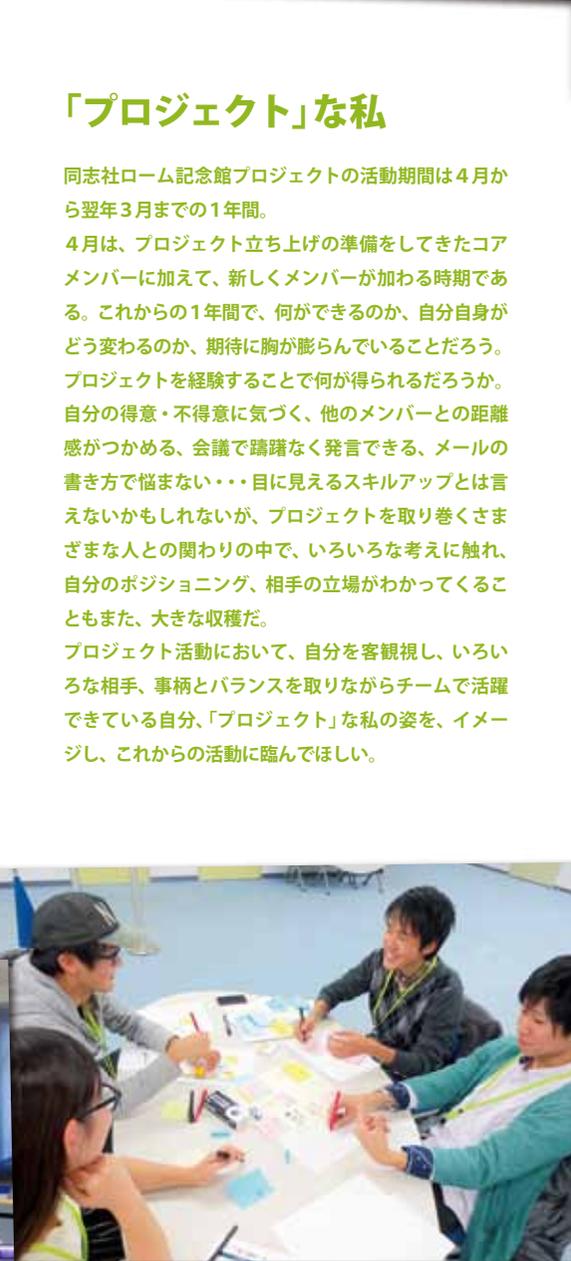
同志社大学理工学部
化学システム創成工学科2年次生
2014年度「プロデューサー養成
プロジェクト@木津川市」所属

入学してまもなく同郷の友人と一緒に飛びこんだプロジェクト。4年生や大学院生の先輩メンバーとの活動でたくさんの刺激を受け、多くのことを学んだ1年間だった。
チームに貢献しようと中学生との活動の発表会でも、プロジェクトの最終成果報告会でも自分からプレゼンターに手を上げた。写真は最終成果報告会でのプレゼンテーションのようす。

プロジェクト・サポート 募金のお願い

学校法人同志社 総長 大谷 實
理事長 水谷 誠

学校法人同志社は、同志社大学ならびに同志社女子大学を中心とした法人内各学校が一致協力して同志社ローム記念館でのプロジェクト主義に基づく新しい教育・人材育成を積極的に進めています。また、これまでも現代GP申請による補助金獲得など学外資金を積極的にとりいれるべく努力をしております。
この同志社独自の新しい教育・人材育成事業を発展的に展開させるために、教職員をはじめ広く社会、市民のみならず皆様からご支援をお願いすることとし、プロジェクト・サポート募金を実施しております。皆様方におかれましては是非ともご賛同いただき、ご協力のほどよろしくお願いいたします。募金のパンフレットおよび詳細につきましては、大学京田辺校地総務課(ローム記念館事務室)にお問い合わせください。
募金は、大学資金課、女子大学経理課、各校事務室でも受け付けます。



メンバー募集

2015年度 プロジェクト紹介

1月19日、エントリーが締め切られた。申請件数は8件、選考を経て全8件が、第12期のプロジェクトに採択された。

VR（バーチャルリアリティ）の技術を活用したものやプログラマー育成から、ものづくり、商品企画、まちおこし、環境教育、スポーツまで、多彩なテーマのプロジェクトが立ち上がった。活動するフィールドは違うが、活動推進で抱える悩みは近いことも多い。情報交換しながらも、切磋琢磨して高い成果を目指してほしい。



フラップ 新商品開発プロジェクト Flap RM211

目標 2016年度春夏および秋冬のレグウェアの新商品開発を目指す。
主な活動 ●市場調査、ワークショップ形式での企画アイデアの創造
●新商品の企画立案および企業へのプレゼンテーション

参加団体：グンゼ株式会社・株式会社洛林舎
プロジェクト責任者：二瓶 晃（同志社女子大学・学芸学部助教）

ロボックス ROBOX RM213

目標 機構・回路・プログラムを複合的に学べるロボット製作キットの企画・開発を目指す。
主な活動 ●ロボット製作キットの開発
●こども向け「ものづくり教室」の運営
●ロボットやものづくりに関する広報活動

プロジェクト責任者：橋本 雅文（同志社大学・理工学部教授）

ディット DIT (Doshisha Institute of Technology) RM215

目標 同志社の大学生向けプログラミング勉強会でのアプリ開発およびハッカソンイベントの実施により参加者のスキル向上を目指す。
主な活動 ●定期的なプログラミング勉強会の企画・運営と教材開発
●同志社の学生対象のハッカソンイベント開催

プロジェクト責任者：大久保 雅史（同志社大学・理工学部教授）

同志社スポーツ応援隊 RM216

目標 硬式野球、ラグビーなどの大学スポーツ観戦ツアーを企画・運営し、スタジアム動員数増加を目指す。
主な活動 ●大学スポーツ公式戦調査
●大学生向け大学スポーツ「観戦ツアー」企画・運営
●大学スポーツに関する映像制作等広報活動

参加団体：同志社大学学生支援センター スポーツ支援課
プロジェクト責任者：二宮 浩彰（同志社大学・スポーツ健康科学部教授）

まなぶ えこ学@京田辺 RM217

目標 小学生向けの新しい体験型環境教育教材、プログラムの開発を目指す。
主な活動 ●京田辺市内小学校での環境教育授業の企画・運営
●小学生向けの環境教育教材、プログラムの開発

参加団体：同志社エコプロジェクト
プロジェクト責任者：野口 範子（同志社大学・生命医科学部教授、環境保全・実験実習センター所長）

VRツクール RM218

目標 VR（バーチャルリアリティ：仮想現実）を用いたコンテンツの開発。マイクロソフトが主催する学生向けITコンテストImagine Cupでの上位入賞を目指す。
主な活動 ●VR技術を活用したコンテンツ開発
●VR体験イベントの開催

プロジェクト責任者：間 博人（同志社大学・理工学部助教）

木津川市イベントプロデュースプロジェクト RM219

目標 京都府木津川市をフィールドに、市内中学生や市の関係団体と連携してまちおこしイベントをプロデュースし、その成功を目指す。
主な活動 ●地域まつり等と連携したイベント企画・運営
●木津川市立中学校生徒チームとの活動
●動画、SNS等のメディアを用いた広報活動

参加団体：木津川市教育委員会・特定非営利活動法人プロデュース・テクノロジー開発センター
プロジェクト責任者：飛龍志津子（同志社大学・生命医科学部准教授）

VR Agency RM223

目標 VR（バーチャルリアリティ：仮想現実）を利用したスマートフォン向けの「宇宙への旅」体験アプリの開発と運用を目指す。
主な活動 ●天体に関するデータ収集
●VR技術を活用したアプリの開発
●アプリ普及のための広報活動

プロジェクト責任者：林田 明（同志社大学・理工学部教授）

のめりこむ、 3ヶ月。

2014プレ・プロ<秋>活動レポート 「企画立案の極意と実践 ～新しい『文具』の企画～」

10/7～12/16 毎週火曜日 18:30～20:00



2014年秋のプレ・プロジェクトは、「新しい『文具』の企画」をテーマとして企画立案を体験するプログラムであった。
前半は、企画立案の基礎を理解するための講義を受け、毎週のテーマに沿ってチームで課題に取り組む、というスタイル。「傘」をテーマに、問題点の洗い出し・背景や市場の調査から解決方法を探り、そのアイデアを企画書にまとめて発表、プレゼンテーションを行った。
後半は、改めてチーム編成し、前半で学んだ知識を活かしながら文具の企画・試作に取り組んだ。最終回のプログラムでは全6チームが作品を発表。参加メンバー・教職員による投票で1位に選ばれたチームに賞品が贈られた。作品は企業が主催する文房具のアイデアコンテストへエントリーしている。

メンバーからは、「始めに考えていた商品から大きく変わったが、とても斬新なものを作ることができて満足。一人ではなく、複数名でできることの大きさ、他の人の考えや力を借りることの心強さを実感した。」「普段関われないような人と関わってよかった。」「限りある時間の中で1つの企画ができたというのは大きな経験になった。」といったコメントもあり、この3ヶ月の活動をとおり、企画立案に必要なスキルを学ぶだけでなく、チームでの活動だからこそ得られる学びや喜びを感じることができたようだ。参加メンバーの今後の活躍が楽しみだ。



メンバー募集

2015プレ・プロ<春> 「『同志社校友会』プロモーション～広告宣伝活動の企画と実践～」

4/24～7/10 毎週金曜日 18:30～20:00



昨年度スタートした「プレ・プロジェクト」。
3ヶ月という短い期間の中で「プロジェクト」を体験してもらう試みである。
第3期となる今回のプレ・プロジェクト<春>では、「プロモーション」がテーマだ。
商品やサービスを提供する側と、その対象となる顧客・受益者側とのコミュニケーションの一環としての広告宣伝を考える。対象となるサービスを知るところから、広告表現、手法を企画にまとめ、プロモーションビデオを完成させるまでの一連のプロジェクトにチームで取り組む。映像制作のプロによるレクチャーを受けながら、撮影・編集などの実践に臨むことができる。
今回、プロモーションの対象となるのは、同志社の卒業生団体である「同志社校友会」だ。
同志社の発展に寄与することを目的に掲げ、32万人を超える卒業生の交流の拠点としてさまざまな事業を展開されている。全都道府県に加え世界各国にも支部設置が進められており、卒業後はもちろん、在学生にとっても頼りになる存在だ。学生の視点から、「同志社校友会」を見つめなおし、その事業や魅力を伝えることで、これからの同志社の発展につなげたい。



プロジェクト「な私」
3 プレ・プロ<春>スタート

プロジェクト「な私」
4 プレ・プロ<秋>活動レポート





2014年度 最終成果報告会
同志社ローム記念館大賞発表会
3月7日(土)

際に見せながらの質問タイムが設けられたが、ロボットやアプリ、冊子など、どのプロジェクトも目に見える成果を手それぞれアピールした。
報告会終了後ただちに賞の選考が行われ、キャンパス内の別会場にて同志社ローム記念館大賞発表会が開催された。「卒業式」をテーマに装飾が施された会場では、4つの賞が発表、賞状・トロフィーなどが授与され、交流会では互いに健闘を讃えあった。会の終盤ではスタジオZero企画による、卒業するメンバーと後輩メンバーが互いにメッセージを寄せたサプライズムービーの放映にメンバーが涙するシーンもあり、盛況のうちに幕を閉じた。

スタジオZeroを含め、全6チームが活動を展開した2014年度(第11期)のプロジェクト、1年間のしめくりとなる最終成果報告会が開催された。
劇場空間では、各チーム10分間のプレゼンテーションと質疑応答を行った。昨年度に引き続き、今年も、学生メンバー相互による「ベストプレゼンテーション賞」を選出することとなり、与えられた時間を有効に使うこと、メンバー以外の人たちに的確に活動や成果を伝えることなど、改めて考え直す機会となった。どのプロジェクトも工夫を凝らし、入念に準備されたことが伝わってくる力のこもったプレゼンテーションであった。
後半は、会場を2階オープンスペースに移して成果物を実



プロデューサー養成プロジェクト@木津川市



同志社ローム記念館プロジェクトの主旨のひとつでもある学生の目線で主体的に思考し、かつ、社会で応用化していくことを実践できていた。具体的な成果物として「プロデュースおたすけキット(アイデア編)」が制作できたことは高く評価できる。また、そこには木津川市の未来を担う中学生とともに学び、試行錯誤した過程が読み取れた。プレゼンテーションにも、これまでのプロデュースの経験が大きく反映されておりすばらしかった。

プロジェクトリーダー

今入 康友 (同志社大学大学院 理工学研究科)

プロジェクト責任者

二村 太郎 (同志社大学 グローバル地域文化学部助教)

参加団体

特定非営利活動法人
プロデュース・テクノロジー開発センター

メンバー数 14名



Pick up!

同志社ローム記念館大賞発表会 交流会第一部「ロムリーグ」

同志社ローム記念館大賞の選考を待つ間、プロジェクトメンバーを対象に、スタジオZeroの企画によるクイズイベントが行われた。

テレビでおなじみの人気クイズ番組をモチーフにしたイベントで、劇場空間の機材もフル活用。緊張の成果報告を終えたメンバーもほっと一息、珍回答も飛び出して会場は大いに盛り上がり、楽しいひとときを過ごせたようだ。



ポータブルラボ



若者の理科離れという社会的な課題をテーマとして取り組み、AR(拡張現実)技術を応用してバーチャルな理科実験ができる段階まで到達できた。また、ARを用いることによって小中学校の理科に対する興味をさらに引き出すことに成功した。成果発表では、実際のデモを効果的に使いながらわかりやすいプレゼンテーションを行った点もよかった。

プロジェクトリーダー

小羽田 諭孝 (同志社大学 生命医科学部)

プロジェクト責任者

大久保 雅史 (同志社大学 工学部教授)

メンバー数 10名

外部審査員特別賞

賞状・副賞(記念品)

macho 編集部



ターゲットを大学生に絞り、キャリア形成のきっかけづくりを目的とした点は、現代の女性の社会進出の流れ、ニーズにも合致している。年間4冊の発行にはたいへんな努力を要したと思われる。女子大生の心をつかむデザイン、レイアウトにも工夫がありよかった。今後の活動ではさらに高みを目指してほしい。

プロジェクトリーダー

清水 佑穂 (同志社女子大学 学芸学部)

プロジェクト責任者

二瓶 晃 (同志社女子大学 学芸学部助教)

メンバー数 22名

ベストプレゼンテーション賞

賞状・副賞(記念品)

プロデューサー養成プロジェクト@木津川市

学生メンバー相互評価により、与えられた時間を有効に活用し、最もすばらしいプレゼンテーションを行ったチームを選出する賞。スライドの見やすさや説明のわかりやすさ、時間配分など、総合的に評価し、5点満点で評価、今回は、発表時間も10分びつたりで、動画を使ったプレゼンテーションの工夫が光った「プロデューサー養成プロジェクト@木津川市」が獲得した。

2014年度 プロジェクト活動レポート

中間報告会 9月27日(土)

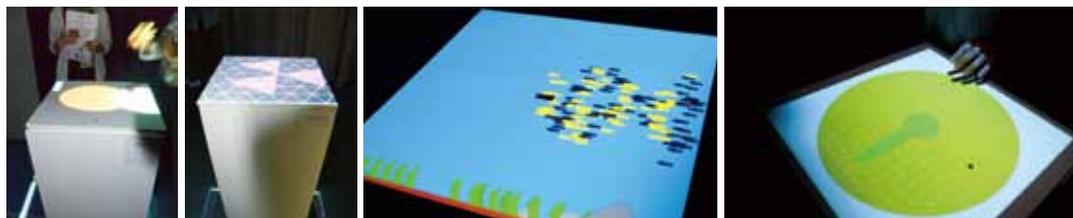


プロジェクト期間も折り返しを迎えるこの時期に毎年行われている中間報告会。今年も劇場空間での各プロジェクト8分間のプレゼンテーションの後、オープンスペースに会場を移し、個別に活動状況や成果について質問し合える質疑応答の時間が設けられた。終了後の交流会でも、引き続きメンバー間の交流がはかられ、有意義な一日となった。



Pick up! プレ・プロ<春>「インタラクティブ・インスタレーションをつくる」ギャラリー展覧会 9月27日(土)

5月から7月に制作に取り組んだ作品の展覧会が中間報告会と同時開催された。4作品が展示され、単年度プロジェクトに参加するメンバーも多数参加。たたいて音を出したり、手をかざしたり、息を吹きかけたり…人の動きに応じた作品の変化を楽しんだ。



同志社クローバー祭 2014 11月1日(土)・2日(日)

今回で10回を数える京田辺キャンパスの学園祭、各プロジェクトがそれぞれイベントやブース出展、出店を企画し、市民や学生に活動をアピールした。館内企画にはのべ2000人の方に参加していただき、大いに盛り上がった。

RoCoP 科学館 企画・運営:RoCoP(Robot Contest Project)



ロボット製作に必要な技術に関する展示とミニロボコン体験を実施。タイムアタック形式のミニロボコン体験では、ロボットのパーツを自分で組み合わせたり、リモコン操作したりと、子ども達も夢中になった。

ものづくり教室 ~とんで! およいで!! はしって!!!~ 企画・運営:ROBOX



恒例となっているものづくり教室では、潜水艇やサッカーロボットの参加定員もすぐに埋まる盛況ぶり。飛行機づくりブースや製作中のコミュニケーションロボットとふれあえるコーナーも、たくさん親子連れでにぎわった。

とびだせ! Lab&Zoo! 企画・運営:ポータブルラボ



開発中のAndroidアプリ「ぼたりにかぼたのとびだすりかじっけん」の体験コーナーを設置。また、ARの技術が体験できるウォークラリーを行った。館内のチェックポイントでマーカーにタブレットをかざすと動物と文字が飛び出して見える工夫が子ども達を楽しませた。

展示 macho展示 出店 ちょころん 企画・運営:macho編集部



完成したばかりのフリーペーパー「macho」Vol.3を配布。バックナンバーの展示とあわせて女性たちへのアンケート調査を行った。出店で販売したチョコレート入りカステラ「ちょころん」の売上は次号発行資金の一部とした。

展示 中学生と考える! 5年後の木津川市のまちプロデュース展 出店 木津川食堂・木津川市物産展 企画・運営:プロデューサー養成プロジェクト@木津川市



プロジェクトメンバーが木津川市内5中学校のメンバーと一緒に考えた5年後の木津川市に向けた企画のポスター展示とアンケート調査を行った。また、出店では、木津川市のPRとして特産物を使った「けんちん汁」や特産品を販売し、好評を得た。

ロームでなぞ解き ~怪盗Jからの挑戦!~ 企画・運営:スタジオZero



館内で出展する各プロジェクトのブース周辺をめぐるクイズラリーを企画。大人も子どもも一緒になって難問に頭を悩ませる場面も。

Pick up! 怪盗Jの野望 ~待ってろシャーロックおろし~

クイズラリーからのスピノフ企画で、実はパンフレットにも載っていないイベントである。祭期間中、劇場空間の空き時間を有効活用しようと急ぎょスタジオZeroが取り組んだもの。オリジナルキャラクター「おろし」が探偵役の「シャーロックおろし」と「怪盗J」に扮してストーリーが展開された。プレイヤーの動きで画面の操作を行うミニゲームで、大人から子どもまで楽しめる内容に仕上がった。



2014年度 プロジェクトの成果に迫る！

NHK大学ロボコンビデオ審査へ！

「NHK大学ロボコン」2015年大会にエントリーしている「RoCoP (Robot Contest Project)」本戦は6月のため、2014年度の活動は大会の選考途中で終了となる。11月には、ロボットの概要や戦術・戦略、スケジュールなどを示した書類を提出してエントリー。書類審査を経て、第一次ビデオ審査に臨んだ。

軽快な足回りにするには？あらゆるサーブやショットも打ち返すには？試行錯誤が続いた。ビデオ撮影直前、ロボットの足回りが急に動かなくなるトラブルもあったが全力を挙げて修理、課題のサーブもクリアでき、ビデオを提出することができた。



木津川市長に提言！ 活動の経験を活かしたプロデュース プログラム開発！

「プロデューサー養成プロジェクト@木津川市」のメンバーと木津川市の中学生チームとの活動で締めくくられた。12月21日(土)のイオンモール高の原での発表会。7ヶ月間の活動で企画した内容についてステージ発表とポスターセッションを行い、中学生メンバーから河井親子木津川市長に提言書を手渡した。河井市長からは「感動しました。それぞれの企画をひとつにして実施していけるの

ではないでしょうか。みなさんのことを誇りに思います。」とコメントいただき、多数の来場者を迎えて盛況のうちに幕を閉じた。



この活動での経験をもとにプロデュース活動に役立つプログラム「プロデュースおたすけキット アイデア編」を開発し、教育機関などに配付している。



人同士のコミュニケーションを促進する ロボットとは？

「ROBOX」が目指してきたのは、「交流会でのコミュニケーションを促進するロボット」だ。パーティ会場で自由に動き回り、ひとりの人を見つけると近づいて声をかける。あいさつを返すと自己紹介をして「名刺」を差し出してくれる、その名も「メイシー」。

コミュニケーション支援として必要な要素を考える一方で、実装できる機能や自分達の持つ技術力と調整しながら制作を進めてきた。コミュニケーションを取りたいと思ってもらえるよう、ビジュアルにも工夫してなんとか完成にこぎつけた。メイシーがロボットと私たち人間の距離を縮め、ロボットの新たな可能性を見出すひとつのきっかけになればと願う。



ARで楽しく理科実験！アプリ完成！

「ポータブルラボ」が目指してきた「てのひら実験室」。2014年秋、Android版アプリ「ぼたりか ～ぼーたのとびだすりかじっけん～」の第一弾がリリースされた。



まずは「電気分野」から公開を開始。アプリとは別に「ARマーカー」をダウンロードして印刷し、切り離す。マーカーには、電池や電球、電流計などがあり、それらを机の上に用意し、

アプリをインストールしたスマートフォンやタブレットをマーカーにかざしながら実験を行う。第二弾は「力学分野」。iOS版も続いてリリースされ、より多くの方に使ってもらえるようになった。対象は主に小学校高学年から中学生。理科が苦手な人も、楽しみながら実験を重ね、理解を深めてほしい。



「macho」全4号発刊！

女子大生にキャリアを考えるきっかけを提供するフリーペーパー「macho」。プロジェクト発足まもなくVol.1の制作に追われ、入稿と同時に夏に発行するVol.2の取材や協賛企業への営業に追われ、そして…と常に締切に追いかけられた1年間。合計4冊のフリーペーパーを発刊、女子大生の手元に届けてきた。

同じ大学生だからわかる悩みや葛藤、自分達が知りたいこと、まわりの女子大生達が求めていることを誌面に詰め込む。想定外に大変なこともあり、心が折れそうになったこともあったが、各号とも、コンテンツとあわせて、つくりたい気持ちやみんなで作る楽しさも伝わる誌面に仕上がっている。



Pick up! イベント

2015年度 同志社ローム記念館プロジェクトエントリー説明会 12月5日(金)

2015年度に実施するプロジェクトのエントリー数増加を目的に、スタジオZeroが企画・運営した説明会。プロジェクトの活動概要やエントリーシート記入に関するノウハウなどを紹介後、選考委員やプロジェクト立ち上げ経験者も交えての座談会も開催。プロジェクトでやってみたいこと、素朴な疑問、先輩の経験談など、フランクに語り合う場となった。



ロームフェア2014 11月12日(水)～13日(木)

毎年恒例のローム株式会社主催の展示会「ロームフェア」。今年も、多くの学生が来場した。今回はスタジオZeroのメンバーが会場レポーターとして各コーナーをまわり、パネルや映像、製品などを紹介する企画を実施。オキュラスリフトでのバーチャルリアリティ体験や、当たればノベルティがもらえるスロットゲーム、恒例のポップコーンやドリンクの配布など、楽しい企画も盛り込まれていた。



Event Report

イベント報告 2014年10月～ 2015年3月



**森・有賀・二瓶ゼミ
3年次生共同制作
京都市共同広報プロジェクト
動画作品発表会**
主催：同志社女子大学
学芸学部 情報メディア学科



**同志社クローバー祭
巨大画面ゲームであそぼう!!**
11月2日(日)
主催：同志社クローバー祭
実行スタッフ



**Meahula Nohealani
Hula Dance Show!**
11月17日(月)
主催：同志社大学
Meahula Nohealani



**プログラム
けん玉師「しげきひろし」
パフォーマンス**
1月21日(水)
主催：同志社大学
学生支援センター



**同志社女子大学 学芸学部
情報メディア学科 進級制作展
「49! (ショック!)」**
2月18日(水)～23日(月)
主催：同志社女子大学
学芸学部 情報メディア学科

● イベント

住まい相談会
10月4日(土)～5日(日)、11月15日(土)～16日(日)、22日(土)、
12月6日(土)～7日(日)、13日(土)～14日(日)、20日(土)～21日(日)
主催：同志社大学 学生支援課

同立戦パブリックビューイング
10月15日(水)
主催：同志社大学 スポーツ支援課 スポーツ・マネジメント・プロジェクト

学習相談
10月22日(水)、11月7日(金)、12月12日(金)、1月9日(金)、23日(金)
主催：同志社大学 学習支援・教育開発センター

Doshisha Spirit Week 2014秋
10月27日(月)
主催：同志社大学 キリスト教文化センター

同志社クローバー祭2014
11月1日(土)～2日(日)
各プロジェクトのイベントはP.11、12を参照

けいはんなプラザ・ブチコンサートIN京田辺at同志社クローバー祭2014
11月1日(土)
主催：けいはんな学研都市活性化促進協議会、けいはんなプラザ・
ブチコンサート実行委員会

ロームフェア2014
11月12日(水)～13日(木)
詳しくは、P.13を参照
主催：ローム株式会社・同志社ローム記念館

**ステップアッププログラム「年功のなし」『返済…遅れるとどうなるの?』
『消費者トラブル対処法-ネット関連-マルチ商法』[ケータイ教室]**
11月18日(火)、19日(水)、12月3日(水)、5日(金)
主催：同志社大学 学生支援センター

2014年度 同志社大学 知的財産セミナー
『知的財産権と品質を一体化させたノビアのブランド戦略』
12月19日(金)
主催：同志社大学 知的財産センター

プログラム アフリカンミュージック『Mafoloマフォロ』コンサート
1月6日(火)
主催：同志社大学 学生支援センター

TAKE ACTION~世界の今と、行動する生き方~
1月9日(金)
主催：同志社大学 留学生課 学生スタッフSIED

**『キャリア形成とインターンシップ』
アメリカ海外インターンシップ事前説明会**
1月20日(火)
主催：同志社大学 キャリアセンター

第9回 全国大学まちづくり政策フォーラムin京田辺
2月27日(金)～3月1日(月)
主催：全国大学まちづくり政策フォーラムin京田辺 実行委員会

● 展示

フォーミュラーの展示
10月1日(水)～
主催：同志社大学 機械研究会

ART-SOZO 4回生展
10月6日(月)～10日(金)
主催：ART-SOZO